

## 「難燃剤とその代替物質のリスク」に関するワークショップ

化学物質の多種類、大量使用、環境排出に伴う、多様なリスクが国際的に懸念されるようになってきました。国際化学物質管理会議で採択された国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ(SAICM)では、2020年までに「化学物質のライフサイクル(製造～輸送～使用～廃棄・リサイクル)を通じたリスク評価に基づき、費用と便益、より安全な代替物質の利用可能性とそれらの有効性に配慮しつつリスクを最小化」という目標が設定され、各国の取り組みが始まっています。わが国でも化学物質リスク評価への取り組みがなされていますが、その評価は特定のエンドポイントのみを対象としたり、ライフステージや用途が限られていることが多く、ライフサイクルに亘る多様なリスクを評価する手法の確立が求められています。

このような背景の下、横浜国立大学においては環境省環境研究総合推進費の下で「HBCD等の製品中残留性化学物質のライフサイクル評価と代替比較に基づく環境リスク低減手法」と題する研究プロジェクトを行っています。さらにこの度、横浜国立大学国際交流基金により欧州コミッションが主導する「特定の臭素化難燃剤の代替オプション事例研究(ENFIRO)」の研究代表者であるPim Leonards博士を招へいする機会を得ました。そこでこの機会に、難燃剤という便益と環境リスクが特徴的に現れる研究に取り組む国内の複数の研究グループの参加もお願いし、「難燃剤とその代替物質のリスク」をテーマとするワークショップを企画しました。難燃剤や化学物質代替リスクに興味のある方々のご参加をお願いします。

開催日時	2013年3月21日(木) 13:00 ~ 17:00 (受付 12:30 ~ )
会場	東京国際フォーラム G610 (Gブロック 6階) ※部屋番号が変更になりました。
プログラム	<p>1. Assessment of alternatives for specific brominated flame retardants: highlights of the ENFIRO project 講演者: Pim Leonards (Institute for Environmental Studies VU University Amsterdam アムステルダム自由大学) *同時通訳予定 *映画「Burning Questions」上映予定 時間: 60+25分程度</p> <p>2. 製品ライフサイクルにおける難燃剤の排出挙動とその制御方策について 講演者: 滝上英孝 (国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター) 時間: 40分程度</p> <p>3. 臭素系難燃剤からリン系難燃剤への代替に伴うリスクトレードオフ評価 講演者: 恒見 清孝 ((独)産業技術総合研究所 安全科学研究部門) 時間: 40分程度</p> <p>4. 製品中 HBCD のライフサイクル評価と代替比較に基づく環境リスク低減手法 講演者: 益永 茂樹 (横浜国立大学大学院 環境情報研究院) 時間: 40分程度</p>
参加費	無料
定員	80人 (定員になり次第、〆切とさせていただきます。)
主催/協賛 (予定)	主催: 横浜国立大学 大学院環境情報研究院/安心・安全の科学研究教育センター 協賛: 日本リスク研究学会、廃棄物資源循環学会、エコケミストリー研究会、TOBAC(東京湾岸地域大学間コンソーシアムによる社会人キャリアアップ運営協議会)、横浜国立大学リフレッシュ教育コース 他
申し込み・問合せ先	横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター メールアドレス: asako@ynu.ac.jp メールにより氏名、所属、連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)をご入力の上お申し込み下さい。

### 東京国際フォーラム Gブロック G610 会議室

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1  
代表電話: 03-5221-9000

#### JR線

有楽町駅より徒歩1分  
東京駅より徒歩5分  
(京葉線東京駅とB1F地下にて連絡)

#### 地下鉄

有楽町線: 有楽町駅とB1F地下にて連絡  
日比谷線: 銀座駅 or 日比谷駅より徒歩5分  
千代田線: 二重橋前駅より徒歩5分  
日比谷駅より徒歩7分  
丸の内線: 銀座駅より徒歩5分  
銀座線: 銀座駅 or 京橋駅より徒歩7分  
三田線: 日比谷駅より徒歩5分

